東京同窓会だより

第1号

〈発行所〉
秋田県立
本荘高等学校
東京同窓会

〈事務局〉
飯田金広

吹き荒れるブリザードの中
白瀬のロマンを南極に

南極観測隊員　竹内智

妻の涙に見送られ

私が南極を目指す動機は、自分の目でオーロラを見て研究したいという夢を持ち続けていたことに加え、日本で初めて南極に足を踏み入れた白瀬中尉と同じ秋田県金浦町の出身ということがある。幸いにも第38次南極地域観測隊員としてオーロラを観測する機会を得ることができた。夢がかなったのである。

出港の11月14日、晴海客船ターミナルには金浦町で準備した横断幕「白瀬のロマンを南極に」が風に揺れていた。友人や知人とあいさつを交わしたあと、妻と息子たちが送り出してくれた。ふいに妻の顔がゆがみ目に涙。私は直視できずに出発ゲートをくぐった。風で上下する五色の紙テープのすき間から見送る人々の涙する顔や笑顔が見え隠れする。妻のハンカチを上下する姿に目が固定されてしまう。観測隊員それぞれの思いを抱いて南極観測船「しらせ」は埠頭を離れた。いざ南極へ！

氷山発見

オーストラリア西海岸・フリーマントルでの補給を終え、一路南極を目指す。荒海と不安が交錯する。もう後戻りはできないのだ。

12月8日8時6分初氷山現認の艦内放送、全員飛行甲板に駆け上がる。初めて目にした氷山は青白く光り輝き、威風堂々の言葉が実によく似合う。「吠える40度、狂う50度、叫ぶ60度」といわれる暴風圏も静かに通過し（とはいっても船体が27度傾いた）、いよいよ南極圏に突入。「しらせ」を包んでいた深い朝霧が風に流され、視界が開けてゆく。そこに南極の雄大なパノラマが姿を現した。海氷の上に真っ白な大地、その上に鋭い岩肌が突き出ている。頬を射す冷気と、えもいえぬ感動で体が震えだす。私が初めて目にする南極大陸である。アムンゼン湾に到着したのは12月14日夜半である。ここで私は遂にくに黒い氷山を目にして驚いた。氷山は、海面に反射した黒い翼の上を映し出すスクリーンの役目を果たしていたのだ。ところが、夕日を浴びた氷山はピンクに輝いていた。まさに魔法の氷である。

珍客ペンギンの歓迎

「しらせ」には珍客が訪れる。その中で一番かわいいのはペンギンである。船体の褐色が珍しいのか集団で見学に来る。試験飛行のヘリコプターの音にビックリして隠ればいになって逃げてゆく様子は何とも愛嬌がある。よちよち歩きからは想像できないほどの速さだ。真っ白なユキドリは気持ち良さそうに羽根を広げ一緒についてくる。アザラシは昨夜しながら近づく「しらせ」に声を張り上げ、吠えかかってくる。中でも一番の珍客はロシア船氷船を観光船に仕立てたカピタン・フレブニコフ号だった。昭和基地を訪問し、次の目的地を目指す途中での出会いである。「がんばってー」と叫ぶ日本人の声が聞こえるくらいまで接近し、「しらせ」を一周しながら長い汽笛を残して去っていった。南極まで来て観光船に出会ったことに、驚いた。昭和基地は南極大陸から4kmほど離れた東オングル島にあり、周りは一年中定着氷に囲まれている。周囲が約8kmの小さな島にはいたるところに観測や通信用のアンテナが林立している。まさにアンテナ島だ。

3mの雪の壁

先発隊と37次越冬隊の歓迎をうけながらヘリポートに降り立つ。雪に埋もれた建物とぬかるんだ道路そしてでこぼこの岩肌が目に入ってきた。「すごいところだなあ」思わず口から漏れた言葉は、その日から現実のものとなった。すぐに除雪作業に取りかかる。道路の両側は3mの雪の壁である。居住棟建設予定地は氷に覆われ、ブルドーザーでも歯が立たない。人力に頼るしかない。ツルハシを振り降ろし石のような氷を砕き、スコップでダンプに投げ入れる。体力だけが消耗していく。夕食後、倒れるようにベッドに入り込む。昭和基地へ到着した興奮が覚めやらぬのかそれとも急激な筋肉疲労のせいなのか、なかなか寝つけない。

一月に入ると、しらせ乗員の協力もあり、作業は急ピッチで進んでいった。8時のラジオ体操に始まり、「今日も一日安全作業で頑張ろう！」の掛け声のもと、みんながそれぞれの作業場に散っていく。19時に夕食を取り、ミーティングが終わるとやっと自分の時間ができる。アルコールを交えた反省会はときには深夜にまでおよぶが、それでも外はまだ明るい。南極の夏の風物詩、白夜である。

南十字星輝く夜空に
オーロラの観測に命を燃やして

★★★

混沌たる革新勢力の担い手として

神奈川県議会議員　菅原和洋

「人生は誠だといわれています。もちろん返りの切符はありません。誠は距離を走りますが、人生は時間を走る旅です。」と肥川治一さんの「百歳時代」のまえがきにあります。

日本では、世界の中でも類をみない速さで世界一の超高令化社会が進んでいます。今まで経験したことのない未知の高令化時代は、多くの試練が待ちうけているように見えます。しかし、国の「高令者保険福祉推進十か年戦略」いわゆるゴールドプランも進行中ですし、二〇〇〇年からスタートする「介護保険制度」も多くの課題を残しながらも介護を必要とする人々のために進められております。

また、長い間、懸命に働き続けて定年になったあと、二〇年も三〇年も長生きする長寿社会を、すべての人が、生きがいのある人生を、いったい、どう過すのか、これからの大きな課題でもあります。

私も人生中ばをすぎ、普通の職業であればあと四年ぐらいで定年の時期を迎えるわけですが、縁があって、十年のサラリーマン生活の後、神奈川県議会議員として二期目を勤めております。

通算して二十一年間の政治活動を市民を代表して"社会で役立つことこそを生きがい"とする人生を送っております。

最近の政治活動の中で感じることは、国、五年前のバブルがはじける前までは、何かと、地域の生活環境を優先としたハード的な面での道路の工事や上下水道の整備やさまざまな公共施設の建設など、地域経済の発展を要望するものが圧倒的でした。

経済優先の時代が終った今回の社会では、「質」的、集権的」なものから「地方分権」つまり国の権限や財源を地方に委譲して、その自治体のライフ・スタイルにあった郷土づくりを進める機運が高まってきております。

つまり、教育・福祉・医療等、人の心のあり方までも含めたソフト面重視の社会へと移行してきています。

ハード面からソフト面を重視する社会、少子化、高令化社会を迎えた今日、いつでも、どこでも、だれもが住みなれた地域で、健康に暮らせるように、ホームヘルパー、ディーサービス、ショートステイーなどのさまざまな介護システムが設けられるようになりました。つまり保健・医療・福祉の充実を図る「福祉社会」の実現が最課題になりつつあります。

二十一世紀も目前にせまり、六十五才のお年寄りは四人に一人の割合になってくる時期もすぐですが、自分自身としても、一度限りの人生なので「人間らしく」悔いのない人生を送りたいと常々思っているところです。

日本海富士といわれている鳥海山を思う時中学時代から何回となく二千メートル以上の鳥海山の登頂を果たした感激を今でも忘れることがありません。自分の足腰に自信があるうちにせめてもう一度、あの雄大な鳥海山の山頂に登りつめて見たいと思うのが、今の私の心境です。

経歴

一九五七年　仁賀保町鶴門中学校卒業
一九六〇年　本荘高校卒業
一九六五年　慶應義塾大学卒業
一九六五年四月　鬼怒川ゼニヤータール入社
一九七六年九月　神奈川県議会議員初当選
一九七九年四月　神奈川県議会議員二期目当選
一九八三年四月　神奈川県議会議員三期目当選
一九八七年四月　神奈川県議会議員四期目当選

Interview

生きがいのある人生を

"卒業後30年―胸にブラバンのメロデーを奏でながら"

「せば渋谷で六時にな。ハチ公の所は本荘公園の花見よりやっぺ人がいるから大のシッポたがいで待ってでけれ」と三十年前の待ち合わせだったらそんな感じかな？同期の安井賢光君（六二期）と渋谷の駅で会って、同期の坂本茂実君（旧姓原田）の店へ、心はずませながら、昨年本荘高校同窓会へ初めて参加した筈が"マイクス・バー"という店を経営していると聞いたので、一度行ってみようという約束をした。今回その取材を渋谷駅から徒歩十分位（表参道駅からは六分位）青山学院の西門向いにあった。スタンド式九席のアットホームなこじんまりした店、彼一人でやっていた。「まずよく来てけだ」早速三十年ぶりのミニミニ同期会、事前に連絡してあったせいかお通しは"菱竿"（とんぶり）"真菜（じゅんさい）"稲庭うどん"酒は"高清水"と秋田一色の気遣い。自宅のすぐ側が、築地の市場ということで冬は"きりたんぽ"等新鮮なものが調意出来るとの事、「カンパーイ、何とんめごとー」おっとそんな事をしている暇はない。今日は新米記者の初取材「ちゃっちゃど聞かねば」先づは六二期が入学した年は東京オリンピックの開かれた年であり、皆んなで授業中テレビ観戦をしたったけど？

●本高時代の部活は？

「ブラスバンド部でスーザホンでした。入部して、まもなく当時校舎は銃筋でしたが、練習室は古い木造昼休み練習していたら突然ものすごい地震におそわれつぶれると思って窓から飛び降りました。大きな被害が出た新潟地震（六月十六日）だったですね。

●一番の思い出は？

「二年生の時、世界的な人気だったビートルズの日本公演を東京まで見に行った事、東京に親がいたので親も許してはくれたんだけど（中間試験の前だったのに、多分風邪とか言って欠席したと思うんだけど）バレたらとドキドキしてたね。でも一ヶ月後位いに、先生から「実は知ってたんだよ」と言われた時は、理解ある担任に感謝したね。

●本高は行事が多くさんあったけど？

球技大会・武道大会・ボート大会、一年から三年まで総あたりだったから優勝チームがもらえるビクトリーバッチは憧れだった。もらえなかったけどね、運動会も仮装行列や応援合戦もやったね。特にフォークダンスはあこがれの人と踊れるのもあと少しという所で throughまわりになって、がっかりした思い出があるね。

三年の卒業の時、謝恩会でエレキバンドを演奏したけど、何だか目立って気持良かった。

●卒業後は？

すぐ上京して就職にある和菓子店に就職（そう言えば彼の実家は本荘市内の協働社の前の茂盛堂という菓子店だった）したんだけど、高校時代やっていた音楽がやりたくて専門学校に入学し、二年間一通りの勉強をした。声楽からギター、ミキシング等バイトをしながらやったんだ。結局は夜のバイトが今の仕事だったので段々そちらの方が主になって現在に至るということです。ここの店は十年前からやっております。お客様の年令は中広いですよ、永いことこの仕事を続けてこられたのはやっぱり、人との出合いが好きなのかもしれないね。知らない人同志が、ここで友達になれる様な店になっているのが楽しいですね」

取材者よりも若く見え、ホンワカムードのやさしい、マスターが一人でやっている喫茶店と、人柄に引かれて来るお客さんがほとんど。

取材／松本幸江（62期）

坂本君　松本　安井君

今！本荘高校は〃

ボート部　惜しくも全国制覇を逃す

男子かじ付きフォア

八月五日下馬評では優勝候補といわれながらインターハイ準優勝となった。女子シングルスカルでは田利高の岡松さんが3位の健闘をし、入賞に本荘のボートが全国に知れわたることが出来た。

男子かじ付きフォア決勝

①関西（岡山・3分33秒97）
②本荘（秋田・3分36秒12）
③八尾（富山・3分36秒86）
（関西は招優勝）

女子かじ付きシングルスカル決勝

①木沢（滋賀・琵琶農）4分26秒80
②吉山（富山・八尾）4分32秒50
③岡松（秋田・由利）4分33秒15

個人戦・男子

5位　井島　広樹
6位　佐々木光彦

放送部・音楽部も大健闘

第三四回千代田杯全国高等学校放送コンクールが昨年一二月二六日、東京の砂防会館で開かれた。本校からは、アナウンス部門に三浦尚子さん（タイトル名「TEA TIME」）ラジオCM部門に「思い出の一冊・白玲瓏」（製作責任者・佐藤充希）が出場し、三浦さんは見事、地区入選を果たした。一方ラジオCM部門作品は残念ながら決勝審査まで進む事は出来なかったが、質の高さで全国から選ばれた精鋭相手に健闘した。

本年一月一五日秋田のアトリオンで開かれた秋田県ボーカルアンサンブルコンテスト・高校の部（参加校12校・14団体）に参加した本校音楽部は、創部史上はじめて一位（金賞）を獲得し、東北大会に出場することになった。女生徒六人で構成された本校は、シューマンの「悲しい歌」「もし鳥になったら」をドイツ語で見事に歌いこなし審査員の高い評価を得た。顧問の川口洋一郎先生も「まじめに良くやっている。生徒達の日頃の練習の賜物」と東北大会、更に全国を射程において目を輝かせながら語ってくれた。（1／20号の珍職より抜粋）

「わが心の十円パン」

日本テレビ全国に紹介

昨年十二月十九日、日本テレビの朝の人気番組「ズームイン!!朝!」で本校の『十円パン』が「わが心の十円パン」と題して全国放映された。

十円パンは今から二十八年前、昭和四十三年からずっと「十円」で売られている。

当時本荘市内でパン屋を経営していた宮本治吉さんが、小遣いの少ない高校生にも買えるパンを、ということから販売を始めたのだそうだ。二十八年間変ることのない味と価格、業者の探算を度外したほとんどボランティアのパンだそうだ。秋田の人情の厚さに拍手等と、全国からの反響を呼んだ。本校の生徒達も新めて地域の人達の好意に対して感謝の気持を持ったことでしょう。

小島彼雄作品集発刊

"ふる里のぬくとさ"

郷土が生んだ優れた文人、小島彼雄の作品を収めた「ふる里のぬくとさ」が発刊された、彼雄は自然を愛し、末荘・由利の人情に生きた人、彼後すでに三十余年になりその名も知らない人が多くなっており、その様な彼雄の随筆や小説・短歌・俳句等を収集保存し「小島彼雄顕彰会」（佐藤屋部会長）が一昨にまとめたもので、平成八年度本荘市ふるさとづくり支援事業の対象となっています。

頒布価格六千円

詳しくは顕彰会事務局の佐々木さん

へ問い合せて下さい。

全国高校女子駅伝競走
連続3年4回目の出場

第8回

昨年十二月二十二日（京都）三年連続、四回目の都大路を本校女子選手達が走ることが出来た。大友監督を初め、選手の健闘を心からたたえたい。「素質は有限、努力は無限」「人並みの才能と人並み以上の努力により、すべての事は可能になる」新たな伝統をつくる為に「創造と挑戦」の気持ちでこれからも努力を続けてゆきたいと、力強い監督の言葉も聞かれ、今後の期待も更にふくらむ、地元及び関西支部の支援も絶大なるものであった。

左から大友先生、1人おいて、藤川・古川・寺田・村上・永田の各選手

全国大会成績及び区間賞者の記録

最終成績　32位（出場チーム47中）
タイム　1時間13分10秒

区	距離(km)	走者名	学年	タイム	区間順位
1	6.0	藤川　恵香	3	20分37秒	20位
2	4.1	寺田　優弓	2	14分7秒	31位
3	3.0	村上百合子	1	10分42秒	38位
4	3.0	永田　瑠美	2	10分12秒	31位
5	5.0	古川美智子	3	17分32秒	33位

全国的に学校の知名度を上げるには数多くの全国大会に出場出来る事は勿論と思いますが、その為には日頃の生徒の情熱とOBの支援が必要不可欠かと思います。更なる特躍と伝統を重ねてもらいたいものです。

平成九年度　東北大会成績

「陸上部」インターハイ出場
四〇〇m優勝　永田　瑠美
八〇〇m4位　永田　瑠美
全国長距離大会出場
寺田　優弓

「弦楽部」インターハイ出場
男子能付きフォア
優勝　東條林・佐藤・土田・佐々木・鳥島
3分15秒69

男子シングルスカル
3位　橋本　伸
3分35秒61

女子シングルスカル
3位　佐々木　歩
4分11秒20

「吹奏部」インターハイ出場
優勝　男子団体（20計16中）
打矢・井島・佐々木・三浦・藤井・佐藤
女子団体（20計16中）
堀内・佐々木・真坂・今野・佐藤（千）・佐藤（和）

個人戦・男子
5位　井島　広樹
6位　佐々木光彦

個人戦　女子
5位　今野　綾

「ヨット部」インターハイ出場
男子ソロ
12位　伊藤康浩組

女子ソロ
2位　伊藤（洋）・高橋組
7位　堀川・佐藤（綾）組

女子デュエット　2位

「柔道部」
女子　52kg　佐々木智乃
（惜々決勝敗退）

「剣道部」
個人戦　池田　直人
（2回戦敗退）

※全国放送コンクール出場
高橋　彩子
木内　陽子

※全国演劇コンクール
団体　惜優勝
個人3位　畠山　敏美

屋内練習場を建設
百周年事業計画動き出す

昨年母校同窓会に設立された百周年記念事業推進委員会は、平成十四年五月二十八日に行なわれる百周年記念式典に合わせて、次のような記念事業の計画を発表した。

①多目的屋内練習場の建設
②校旗の新調
③同窓会名簿の発行（平成十一年八月出版予定）
④記念誌の発行（これには創立以来の写真をふんだんに掲載する）

この外に新しい部歌をつくったらどうか、また校歌に代わる学園賛歌をつくったらどうかという意見も出されたが、決定には至らなかった。今後同窓会と学校及びPTAとの合同推進委員会を設立し、実行に踏み出すことになった。

編集後記

現代において、私達の行動は新しい情報を判断することによって決定されます。首都圏在住約三千名の同窓生に、新しい情報を提供することによって、お互いのネットワークを広げ、同窓生としての絆を少しでもそれぞれの社会生活に役立てたいと願って、この会報を発行しました。もちろん会員のみなさんの投稿を編集し、皆様に届いた会報」となるよう努力します。このためには同窓生のみなさんの絶え間のない励ましと身近にある情報を多数届けてくださることが、新鮮な会報を作るためのキーポイントになると考えています。

広報委員／松本幸江（62期）
副部長江（61期）　池田智三（55期）　打矢篤（44期）